13. 筋骨格系・結合組織の疾患

文献

河瀬美之、石神龍代、中村弘典、ほか. 腰痛に対する鍼治療　偽鍼を対照群に用いた多施設ランダム化比較試験 *全日本鍼灸学会雑誌* 2006; 56(2): 140-9. 医中誌 Web ID: 2006225874

1. 目的

腰痛に対する太極療法と低周波鍼通電置鍼療法の有効性の比較

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

3. セッティング

鍼灸院 11 施設、愛知・岐阜、日本

4. 参加者

主訴が腰痛であった初診患者 64 名 (男性 36 名、女性 28 名)。

5. 介入

Arm 1: 太極療法+電気鍼 (12 名)。Arm2 と Arm3 の治療を併用。

Arm 2: 太極療法のみ (13 名)。ステンレス製ディスポーサブル鍼 (0.18×30mm) を用い、黒野式全身調整基本穴 (中脘 (CV12)、期門 (LR14)、天枢 (ST25)、気海 (CV6)、天柱 (BL10)、風池 (GB20)、大杼 (BL11)、肩井 (GB21)、肺兪 (BL13)、厥陰兪 (BL14)、脾兪 (BL20)、腎兪 (BL23)、大腸兪 (BL25)）に単刺術を施す。

Arm 3: 電気鍼のみ (20 名)。ステンレス製ディスポーサブル鍼 (0.20×30mm) を用い、腎兪、委中 (BL40) に 5−7mm 刺入し、5Hz、2V、5 分間通電。

Arm 4: シャム鍼 (19 名)。脾兪、腎兪、大腸兪に鍼を使用せず、鍼管のみを叩打。但し、最終的には、Arm2 では電気鍼を、Arm3 では太極療法を、Arm4 では電気鍼と太極療法をさらに施した。

6. 主なアウトカム評価項目

VAS および日本整形外科学会腰痛治療成績判定基準 (JOA スコア) 、いずれも治療前、割付治療後、最終治療後に評価。

7. 主な結果

VAS、JOA スコアともに、前後比較では Arm 1、Arm 2、Arm 3 で有意な改善がみられたが (いずれも P<0.05)、Arm 4 では有意差は認められなかった。群間比較では Arm 1、Arm 2、Arm 3 は、Arm 4 と比較して有意な改善が認められた (いずれも P<0.05)。

8. 結論

腰痛に対して太極療法と低周波鍼通電置鍼療法は有効である。

9. 鍼灸学的考察

なし

10. 論文中の安全性評価

記載なし。

11. Abstractor のコメント

本研究は、施設ごとの患者数、割付後各群の患者数ともに偏りがみられるが、多施設ランダム化比較試験に対する今後の可能性を示した点では高く評価できる。多施設における臨床研究では、治療の標準化ができていなければ統合した形での評価が困難となるが、その点本研究では、頻繁に訓練を行うなどの工夫によって各施設間の技術的な差を最小限にできており、その意味でも有意義な研究である。

12. Abstractor

保坂政嘉　2011.9.11